

8

令和6年度

主要な施策の成果に関する報告書

< その2 >

多賀城市まちづくり報告書

(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

令和7年9月

多 賀 城 市

目 次

8<その2>

この報告書は、3分冊で構成されています。この冊子は「8<その2>」です。

IV	多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)	5
1	多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは	
(1)	施策別評価の概要	7
2	全体の動向	
(1)	将来都市像指標のうごき	8
(2)	指標全体のうごき(施策・基本事業別)	8
(3)	政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)	9
(4)	指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)	10
(5)	政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)	11
3	施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)	
(1)	施策・基本事業評価の見方	12
	政策1 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり(安全安心)	15
	政策2 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり(健康福祉)	27
	政策3 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり(教育文化)	51
	政策4 都市と自然の環境調和 快適で潤いのあるまちづくり(生活環境)	67
	政策5 地域の資源と知恵をいかす 活気あふれるまちづくり(産業活気)	81
	政策6 地域の未来を共に創る 絆と誇りを築くまちづくり(地域創生)	93
	政策7 縮減社会への対応 持続可能な行財政経営(行財政経営)	101
	(参考)多賀城市まちづくりアンケート調査結果<令和6年度実施>	113

この「主要な施策の成果に関する報告書」は、第六次多賀城市総合計画に基づく令和6年度の事業と決算のあらましについて、3分冊で構成されています。

7<その1>では、「各会計の決算概要」を掲載しており、あわせて参考資料も掲載しています。
8<その2>では、「多賀城市まちづくり報告書」として施策・基本事業の動向等を掲載しています。

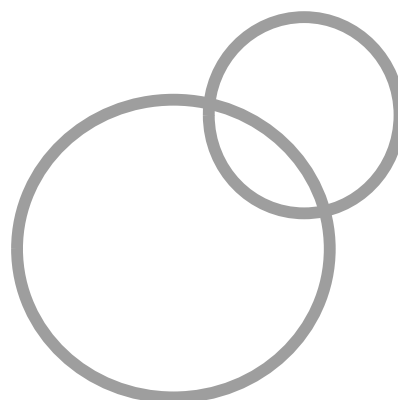
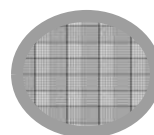
9<その3>では、実施計画事業及び主要事業の「事務事業評価表」を掲載しています。

この報告書は、市民と行政とがまちづくりの進み具合を共有するための資料として作成し、公表しています。

なお、すでに公表している令和5年度までの本報告書については、市ホームページでもご覧いただけます。

Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書

（第六次多賀城市総合計画進捗状況報告）



Ⅳ 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)

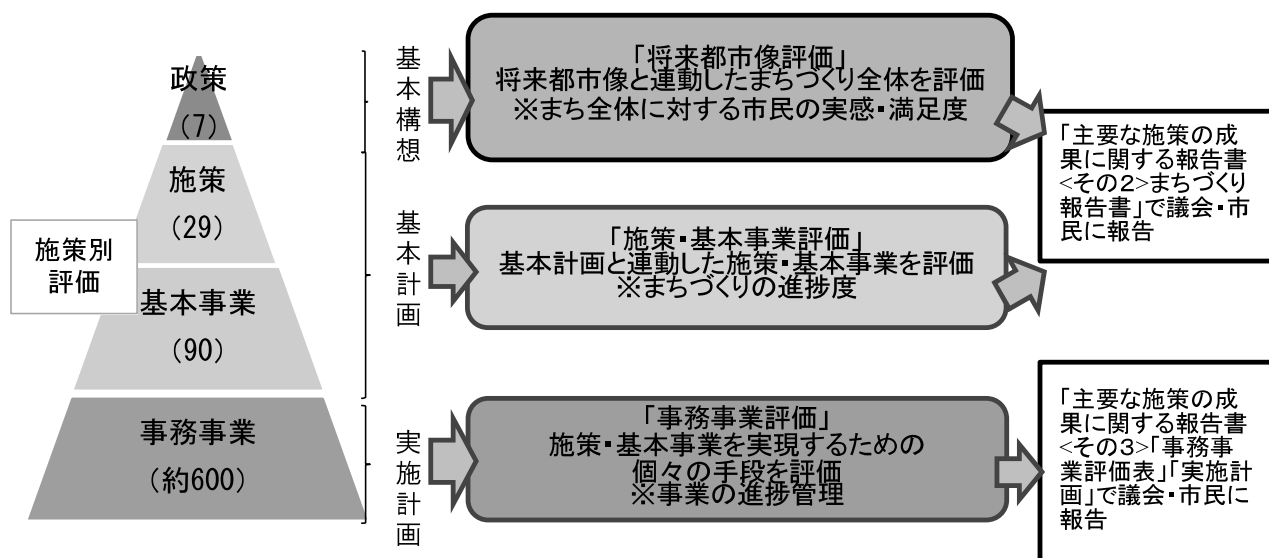
1 多賀城市まちづくり報告書(第六次多賀城市総合計画進捗状況報告)とは

多賀城市まちづくり報告書は、総合計画の目指すまちの姿の実現に向けて、まちづくりがどの程度進んでいるのか、事業の成果は上がっているのかといったことを示すため、令和6年度の決算を踏まえて、まちづくりの成果報告書として作成しています。

施策、基本事業における成果指標の推移を踏まえた成果状況等の結果を「施策別評価」として示すことで、総合計画の進捗状況等を明らかにしています。

また、複数年での指標の推移を確認することにより、指標のうごきが外的要因による突発的なものなのか、社会情勢の変化等による必然的なものなのかを見る目安となり、限られた行財政経営資源の「選択と集中」及び行政活動の「改革と改善」への活用が期待されます。

一般的には、事務事業の成果が向上することで基本事業の成果が向上し、基本事業の成果が向上することで施策の成果が向上する仕組みになっています。



(1) 施策別評価の概要

① 施策別評価とは

施策別評価は、階層分けした施策及び基本事業について、指標の推移を踏まえた成果状況やその原因分析等の評価結果を施策ごとに示すものであり、これにより総合計画の進捗状況等を明らかにするとともに、その評価結果を次の施策や事業展開に活かしていくこととしています。

施策や基本事業に対して、その目的がどの程度達成されたのかを測るものさしとして「指標」を設定し、成果状況を数値で表すことで、総合計画の進捗状況や事業の成果状況を客観的に把握し、分析していくこととしています。

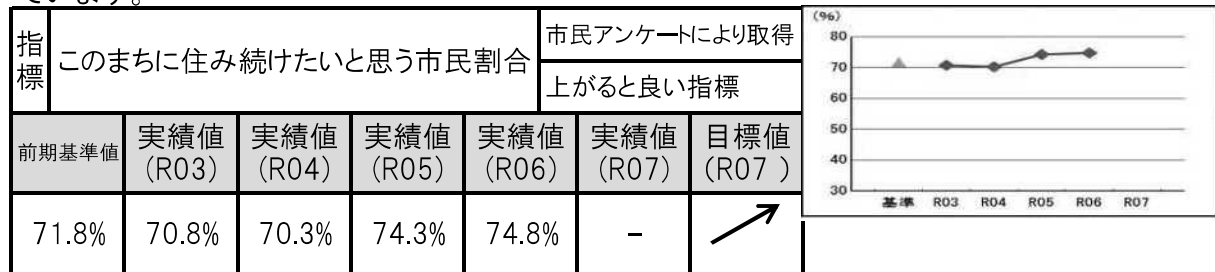
② 指標のうごきからみるまちづくりの状況

施策・基本事業の指標の動向を前期基準値に対する「指標のうごき」で捉えるとともに、指標の令和7年度前期目標値に対する「目標達成度」を捉えることとし、これらをもとに総合計画の進捗状況を示しています。

2 全体の動向

(1) 将来都市像指標のうごき

本市の将来都市像「日々のよこびふくらむまち 史都 多賀城」実現に向けたまちづくり全体の達成状況とまち全体に対する市民の実感・満足度を測るものとして、次の指標を設定しています。



(2) 指標全体のうごき(施策・基本事業別)

指標のうごきは、指標の前期基準値からの推移状況をもとに下表のとおりです。「晴れ(向上)」、「晴れ(横ばい)」、「曇り(横ばい)」、「雨(低下)」の4段階の区分で表しています【13ページ「指標のうごき」参照】。

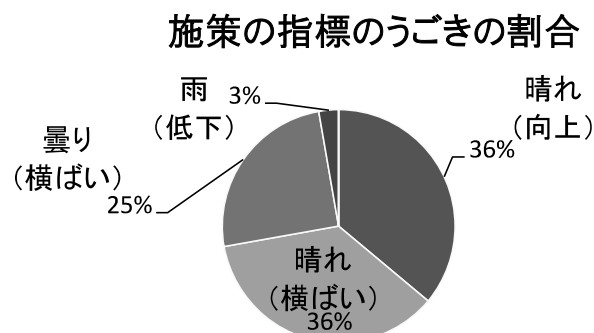
施策と基本事業の「指標のうごき」の状況は下図のとおりとなっています。

成果が向上している主な施策・基本事業の指標は、「各種がん検診を受けている市民割合」、「子育てしやすいまちであると思う保護者割合」、「地域子育て支援拠点の利用者数」、「連携している在宅医療機関、介護事業所の数」、「学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている児童の割合(小学生)」、「生涯学習施設を利用している市民割合」、「市内所在の文化財等訪問者数」、「市民1人当たり年間可燃ごみ排出量(家庭ごみ)」、「観光客の満足度」、「地域経営の仕組みや体制の構築に向けた協議等の回数(累計)」、「暮らしの中に多賀城らしさを感じる市民割合」、「多くのことにチャレンジできるまちだと思う市民割合」、「まちの情報を多様な媒体から得ている市民割合」、「市民からの理解と信頼の得られる行政サービスが提供されていると思う市民割合」です。

成果が低下している主な施策・基本事業の指標は、「地域で手助けしたり、されたりする環境が整っていると思う市民割合」、「授業がわかると答える生徒割合(中学生)」、「子どもを対象とした環境教育の参加者数」です。

① 施策数、指標数及び指標のうごきの割合等

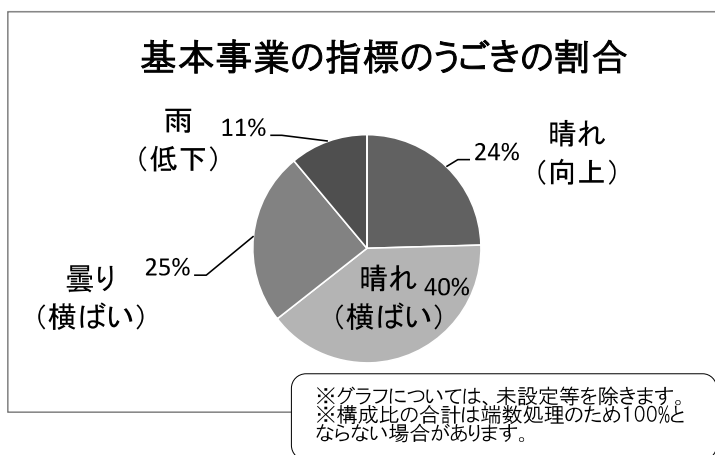
施策数	29
指標数	38
(内訳)	
晴れ(向上)	13
晴れ(横ばい)	13
曇り(横ばい)	9
雨(低下)	1
未設定等	2



※グラフについては、未設定等を除きます。
※構成比の合計は端数処理のため100%と
ならない場合があります。

②基本事業数、指標数及び指標のうごきの割合等

基本事業数	90
指標数	141
(内訳)	
晴れ(向上)	29
晴れ(横ばい)	47
曇り(横ばい)	29
雨(低下)	13
未設定等	23



(3) 政策別の指標全体のうごき(施策・基本事業合計)

① 全体の傾向

施策と基本事業の指標を「政策」ごとにまとめた政策別の指標のうごきの状況は下図のとおりとなっています。

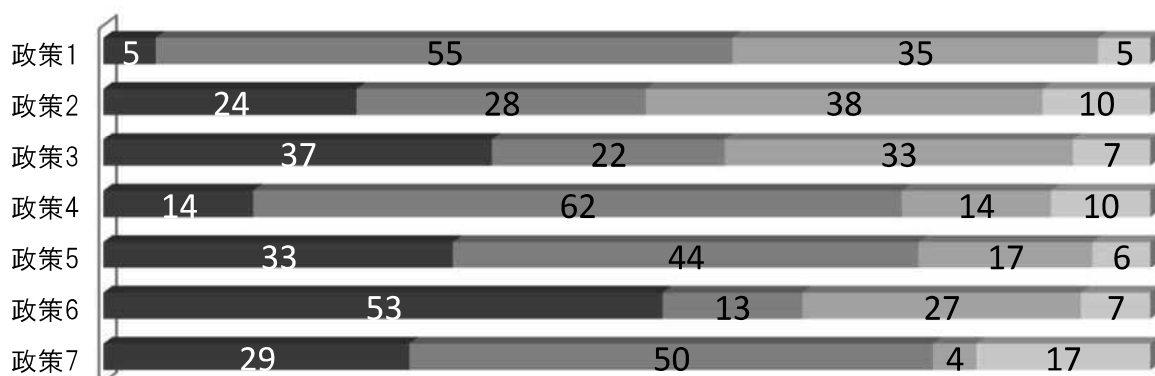
◎施策・基本事業の指標数及び指標のうごき

	晴れ(向上)	晴れ(横ばい)	曇り(横ばい)	雨(低下)	未設定等	計
政策1	1	11	7	1	0	20
政策2	7	8	11	3	13	42
政策3	10	6	9	2	2	29
政策4	3	13	3	2	5	26
政策5	6	8	3	1	0	18
政策6	8	2	4	1	0	15
政策7	7	12	1	4	5	29
計	42	60	38	14	25	179

単位:%

施策・基本事業の指標のうごきの割合(政策別)

■晴れ(向上) ■晴れ(横ばい) ■曇り(横ばい) ■雨(低下)



※グラフについては、未設定等を除きます。
※構成比の合計は端数処理のため100%と
ならない場合があります。

(4) 指標全体の目標達成度(施策・基本事業別)

指標の令和6年度における前期計画目標値への目標達成度を、「達成(前期目標値を達成しているもの)」、「高(令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの)」、「中(後期基本計画において、継続・事業展開が必要なもの)」、「低(令和7年度(前期目標年度)までの達成は困難であるが、やむを得ないもの)」の4段階の区分で表しています【13ページの目標達成度参照】。

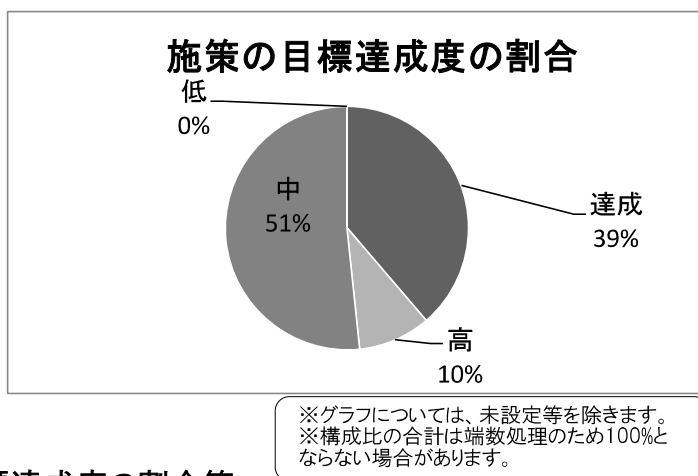
施策と基本事業の「目標達成度」の状況は、下図のとおりとなっています。

前期目標値を達成している主な施策・基本事業の指標は「各種がん検診を受けている市民割合」、「子育てしやすいまちであると思う保護者割合」、「連携している在宅医療機関、介護事業所の数」、「介護サービス事業者・施設への実地指導件数(累計)」、「学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている児童の割合(小学生)」、「生涯学習施設を利用している市民割合」、「市内所在の文化財等訪問者数」、「市民1人当たり年間可燃ごみ排出量(家庭ごみ)」、「観光客の満足度」、「新たな魅力が創出された地域資源等の個数(累計)」、「地域経営の仕組みや体制の構築に向けた協議等の回数(累計)」、「団体情報ファイルに登録されている市民活動団体数」、「暮らしの中に多賀城らしさを感じる市民割合」、「多くのことにチャレンジできるまちだと思う市民割合」、「まちの情報を多様な媒体から得ている市民割合」、「市民からの理解と信頼の得られる行政サービスが提供されていると思う市民割合」です。

前期目標年度で達成することが難しいと見込まれる主な施策・基本事業の指標は、「教育・保育施設等の定員数」です。

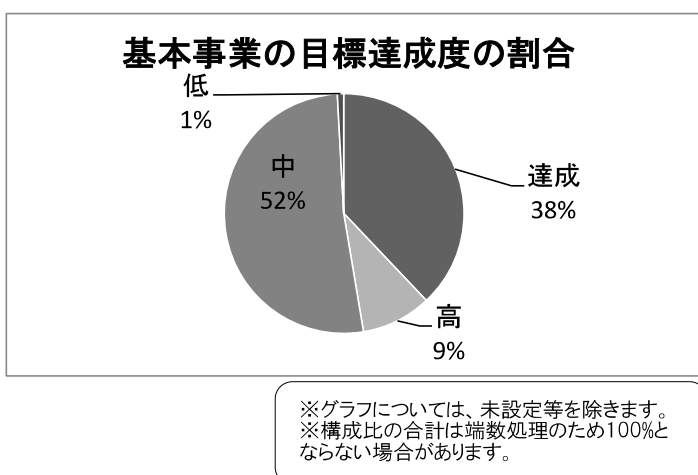
①施策数、指標数及び目標達成度の割合等

施策数	29
指標数	38
(内訳)	
達成	12
高	3
中	16
低	0
未設定等	7



②基本事業数、指標数及び目標達成度の割合等

基本事業数	90
指標数	141
(内訳)	
達成	44
高	11
中	60
低	1
未設定等	25



(5) 政策別の指標全体の目標達成度(施策・基本事業合計)

① 全体の傾向

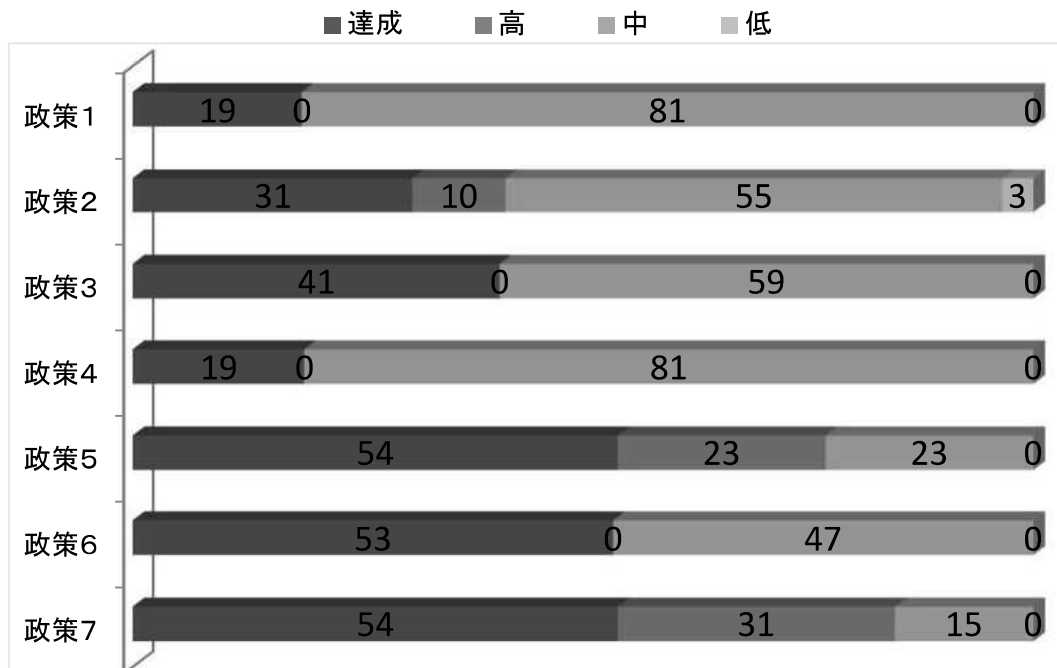
施策と基本事業の指標を「政策」ごとにまとめた政策別の目標達成度の状況は下表のとおりとなっています。

◎施策・基本事業の指標数及び目標達成度(政策別)

	達成	高	中	低	未設定等	計
政策1	3	0	13	0	4	20
政策2	9	3	16	1	13	42
政策3	11	0	16	0	2	29
政策4	4	0	17	0	5	26
政策5	7	3	3	0	5	18
政策6	8	0	7	0	0	15
政策7	14	8	4	0	3	29
全体	56	14	76	1	32	179

単位:%

施策・基本事業の目標達成度の割合(政策別)



※グラフについては、未設定等を除きます。
※構成比の合計は端数処理のため100%とならない場合があります。

3 施策・基本事業の動向(成果指標等一覧)

(1) 施策・基本事業評価の見方

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の成果状況は、左側のページとなるよう調整しています。

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心に暮らすことができます。

【指標の区分】

目指す姿の実現具合を測るものさしとして設定している指標は、その特性により次の3つに区分しています。

成果：目指す姿の達成度を示すもの

社会：事業状況を指標化したものの、行政の関与よりも社会経済情勢等の影響が大きいもの

代替：成果の指標化が難しい場合に、代替指標として行政の活動量等を設定したもの

【取得方法】

市民アンケート：毎年定期的に市民3,000人を対象に行う多賀城市まちづくりアンケートにより取得する方法

職員アンケート：毎年定期的に職員を対象に行うアンケートにより取得する方法

業務取得：業務内で取得する方法

課独自調査：指標を取得するために各課等が行うアンケート等により取得する方法

【指標特性】

上がると良い：数値が上がると良い指標

下がると良い：数値下がると良い指標

その他：数値の増減で良し悪しを判断できない指標

【担当部署】令和7年度担当部署を記載しています。

【前期基準値】

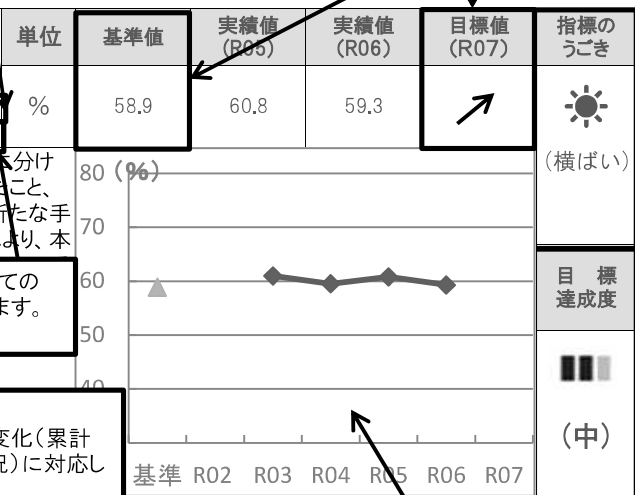
原則として、次のような取得年度となっています。これ以外の年度に取得している場合には、評価欄に記載しています。

市民アンケート、職員アンケート指標：令和2年度に取得
業務取得、課独自調査指標：平成31年度に取得

施策の成果状況と評価

まち(市民、地域、行政)の防災・減災体制に安心感を持つ市民割合

① 成果 市民アンケート 上がると良い 危機管理課

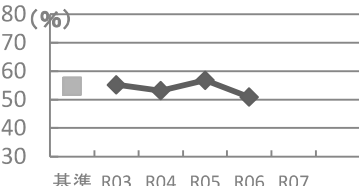


【掲載している施策・基本事業は、掲載例です。実際の内容とは異なります。】

□基本事業の成果状況と評価

基本事業の成果状況は、はじめりが右側のページとなるよう調整しています。

施策評価と見方は一緒です。

基本事業01 地域防災力の促進(自助・共助)											
指標	災害への備えをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	54.8	56.8	50.9	➔		
①	災害への備えを4つ以上していると回答した市民割合										
評価	(原因)防災ハザードマップや総合防災訓練、広報多賀城、出前講座などを通じて、日頃の備えや東日本大震災の記憶について伝承する活動を行っていますが、ここ数年本市において大きな災害が発生していないなど、災害に対する備えの意識が希薄化していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										(横ばい)
											目 標 達成度

【目標値】

目標値は、次の3つのパターンで表しています。

数値：業務データから現状値を把握するもの

矢印：目標値を数値で表しにくいもの(アンケートによる把握、取得方法変更等)と現状維持のもの

※アンケート指標については、統計誤差の関係があるため、方向性を矢印で表しています。

－：指標区分が「社会」のもの及び目標設定がなじまないもの

【指標のうごき】

前期基準値(又は取得初年度)と比較した際の令和6年度の成果指標のうごきを、次の区分により示しています。

なお、市民アンケートから数値を取得しているものは、一定の統計誤差を考慮しています。

☀(向上)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ向上しているもの

☀(横ばい)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微向上(横ばい)であるもの

☀(横ばい)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ微低下(横ばい)であるもの

☀(低下)：数値(成果)が前期基準値(又は取得初年度)に比べ低下しているもの

－：累計以外で前期基準値がないもの、令和6年度に実績値がないもの、指標特性が「その他」のもの、取得初年度のもの

※累計については、目標値に対する数値(成果)の進捗状況に応じて、区分しています。

【目標達成度】

成果指標の前期目標値への令和7年度(前期目標年度)を基準とした、達成度見込みを示しています。

☀(達成)：前期目標値を達成しているもの

■■■(高)：令和7年度(前期目標年度)で達成する可能性が高いもの

■■■(中)：後期基本計画において、継続・事業展開が必要なもの

■■■(低)：令和7年度(前期目標年度)までの達成は困難であるが、やむを得ないもの

－：前期目標値が「－」のもの、令和6年度に実績値がないもの

政策1

みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり
(安全安心)

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策 01 防災・減災対策の推進

施策の目指す姿

大規模災害の経験をいかし、みんなの力で災害に強いまちが形成されることで、安全・安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	まち(市民、地域、行政)の防災・減災体制に安心感を持つ市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	58.9	60.8	59.3	➔	
評価	(原因) 地域の自主防災組織の活動や市内を3ブロックに分けて実施するブロック地区訓練を総合防災訓練に導入したこと、災害情報を発信するため防災無線(同報系)の更新や新たな手段として多賀城市防災ビジョンの構築などの各種取組により、本市の防災・減災体制に対して一定の理解や安心に繋がっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										 目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 地域防災力の促進（自助・共助）

指標①	災害への備えをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	54.8	56.8	50.9	→	
評価	災害への備えを4つ以上準備していると回答した市民割合									 目標達成度
	(原因) 防災ハザードマップや総合防災訓練、広報多賀城、出前講座などを通じて、日頃の備えや東日本大震災の記憶について伝承する活動を行っていますが、ここ数年本市において大きな災害が発生していないなど、災害に対する備えの意識が希薄化していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									

基本事業01 地域防災力の促進（自助・共助）

指標②	災害時に地域で助け合いができると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	57.4	59.1	58.2	→	
評価										 目標達成度
	(原因) 総合防災訓練を通じて、地域の自主防災組織の活動機会が創出され、共助の意識が高まっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									

基本事業02 公的機関防災体制の確保（公助）

指標①	災害時に職員として果たすべき役割や初動を理解している職員割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	職員アンケート	上がると良い	危機管理課	%	100	98.3	98.9	→	
評価										 目標達成度
	(原因) ほぼすべての職員が、災害時に行うべき初動体制や果たすべき役割について、総合防災訓練や現地班員研修などを通じて理解浸透を図ったことが要因と考えられます。									

基本事業02 公的機関防災体制の確保（公助）

指標②	災害用備蓄品の備蓄率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	危機管理課	%	100	70	76	→	
評価	必要数を超えている場合、備蓄率は100%と表現									 目標達成度
	(原因) 令和5年度に備蓄食料の計画を見直し、これまでの72,000食から198,000食に見直したことで令和6年度から令和10年度までで段階的に備蓄率が100%となるよう保存年限などを考慮しながら、計画的に備蓄していることが要因です。 ※備蓄率の推移計画 令和7年度 82% 令和8年度 88% 令和9年度 96% 令和10年度 100%									

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 災害経験の伝承

指標①	市民に災害経験を伝承する機会を設けた数				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき													
	成果	業務取得	上がると良い	危機管理課	回/年	5	8	11	5	☀ (横ばい) 目標達成度 🏠 (達成)													
評価	(原因) 各地で発生している災害や今後発生が予想されている大地震など、東日本大震災当時の記憶を事前防災に活かそうと出前講座等を活用していることが要因と考えられます。				(回/年) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>5</td></tr><tr><td>R03</td><td>8</td></tr><tr><td>R04</td><td>8</td></tr><tr><td>R05</td><td>11</td></tr><tr><td>R06</td><td>11</td></tr><tr><td>R07</td><td>5</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	5	R03	8	R04	8	R05	11	R06	11	R07
項目	値																						
基準	5																						
R03	8																						
R04	8																						
R05	11																						
R06	11																						
R07	5																						

基本事業03 災害経験の伝承

指標②	災害の経験を周囲に伝えている市民割合				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	69.2	70.7	64.8	➡															
評価	（原因）ここ数年本市内で大きな災害等が発生していないこともあり、東日本大震災当時の体験を振り返る場や災害に関して考えるきっかけが少なくなっていることが要因の1つとして考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>69.2</td></tr><tr><td>R03</td><td>66.5</td></tr><tr><td>R04</td><td>66.5</td></tr><tr><td>R05</td><td>70.7</td></tr><tr><td>R06</td><td>64.8</td></tr><tr><td>R07</td><td>64.8</td></tr></tbody></table>					項目	値	基準	69.2	R03	66.5	R04	66.5	R05	70.7	R06	64.8	R07	64.8	☁ (横ばい)
										項目	値													
基準	69.2																							
R03	66.5																							
R04	66.5																							
R05	70.7																							
R06	64.8																							
R07	64.8																							
										目 標 達成度														
										■■ (中)														

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策 02 防犯対策の推進

施策の目指す姿

犯罪に関する総合的な取組が進み、市民一人ひとりの防犯意識が高まることで、みんなの力で犯罪に遭わない、起こさせない地域が形成され、安全・安心に暮らすことができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	刑法犯認知件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	480	382	291	—	(横ばい) 目標 達成度 ---														
評価	暦年での件数				(件/年) <table><thead><tr><th>年度</th><th>件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>480</td></tr><tr><td>R03</td><td>270</td></tr><tr><td>R04</td><td>270</td></tr><tr><td>R05</td><td>380</td></tr><tr><td>R06</td><td>290</td></tr><tr><td>R07</td><td>290</td></tr></tbody></table>						年度	件数	基準	480	R03	270	R04	270	R05	380	R06	290	R07	290
	年度	件数																						
基準	480																							
R03	270																							
R04	270																							
R05	380																							
R06	290																							
R07	290																							
	(原因) 防犯ボランティア・警察と連携した地域のパトロールや、乗物盗を減少させるための啓発活動を継続してきたことが要因と考えられます。																							

指標②	犯罪が少なく、安心して暮らせる地域になっていると思う市民割合				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	79.2	81.7	81.4	➡	☀ (横ばい)	
評価	(原因) 地域のボランティアの見守り活動や防犯パトロール等の啓発活動を継続してきたことや、刑法犯認知件数が減少していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										目標達成度 ■■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 地域ぐるみでの防犯体制の促進

指標 ①	防犯対策に取り組んでいる市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	70.9	69.8	69.4	➔	
評価	防犯対策を2つ以上していると回答した市民割合									(横ばい)
	(原因) 自宅の戸締りについては、大半の市民が実施しているものの、それ以外の対策に取り組んでいる割合が低くなっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度
										■ (中)

基本事業01 地域ぐるみでの防犯体制の促進

指標 ②	防犯活動に取り組んでいる市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	危機管理課	%	24.6	24.7	21.8	➔	
評価										(横ばい)
	(原因) 防犯パトロールや防犯講習会などの防犯活動は定期的に実施しているものの、地域での防犯活動の参加者が減少傾向であり、市民のライフスタイルの変化が影響していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度
										■ (中)

基本事業02 防犯機能を有する施設・設備の保全と整備

指標 ①	防犯機能を有する施設・設備の整備件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	危機管理課	件	—	25	35	60	
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計。防犯街路灯と防犯カメラの合計									(横ばい)
	(原因) 防犯街路灯補助制度によって、自主的に防犯機能を有する施設や設備を設置する地域が増加していることが要因です。									目標 達成度
										■ (中)

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心に暮らせるまちづくり

施策 03 安全な消費生活の確保

施策の目指す姿

消費生活に関する知識を深めることで自立した消費者が増え、かつ、相談体制を整備することで消費者トラブルが減少し、安全で安心な消費生活を営むことができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	消費者トラブルに遭った市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき												
	成果	市民アンケート	下がると良い	地域コミュニティ課	%	9	11.9	12.5	➡	 (横ばい)												
評価	(原因) トラブルはないという回答が最も多く8割を超えているものの、何らかのトラブルにあったことがあるとの回答が増加しており、電話勧誘販売やインターネット通信販売、携帯電話アプリに伴うトラブルにあったという回答が多くなっています。これは手口が複雑・巧妙化し、また情報が氾濫する中で年齢を問わず正確な判断が難しくなっていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%)  <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>9</td></tr><tr><td>R03</td><td>11.9</td></tr><tr><td>R04</td><td>11.9</td></tr><tr><td>R05</td><td>12.5</td></tr><tr><td>R06</td><td>12.5</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	9	R03	11.9	R04	11.9	R05	12.5	R06	12.5	 目標 達成度
										項目	値 (%)											
基準	9																					
R03	11.9																					
R04	11.9																					
R05	12.5																					
R06	12.5																					
					 (中)																	

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 消費生活情報の発信

指標 ①	消費者トラブルに関する対応を知っている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	地域コミュニティ課	%	88.2	89.5	90.7	→	 (横ばい)
評価	(原因) 昨今特殊詐欺等の事件の多発によりテレビ等報道に取り上げられる機会が増え消費者側の関心が高まっていることが要因と考えられます。また、トラブルから身を守るための消費者講座及び出前講座の開催に加え、広報多賀城・市ホームページ等で啓発に努めたことも要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 目標達成度
										 (中)

基本事業02 消費生活相談の推進

指標 ①	消費者相談で解決策を提示した割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	地域コミュニティ課	%	100	100	100	→	 (横ばい)
評価	他機関への紹介を含む。 (原因) 相談のあった消費生活相談の全てに解決策を提示していることが要因と考えられます。消費生活相談員が研修会へ積極的に参加し、参考図書等での事例案件を整理することで、個々の相談解決スキルの向上が図られています。									 目標達成度
										 (達成)

政策 01 みんなの力で減災 安全で安心して暮らせるまちづくり

施策 04 交通安全対策の推進

施策の目指す姿

市民一人ひとりの交通安全意識とまちの交通安全環境を良好に保つことで、交通事故が減少し、安全・安心に暮らすことができています。

施策の成果状況と評価

指標①	交通事故発生件数（人身事故）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	178	123	118	—	☀ (向上)
評価	暦年での件数				(件/年)					目標 達成度
	(原因) 警察による取り締まりや交通安全関係団体と連携した啓発活動により市民一人ひとりの交通安全に対する意識が高まっていることが要因と考えられます。									—

指標②	市民が第1当事者となった交通事故発生件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	件/年	169	120	122	—	☀ (横ばい)
評価	暦年での件数				(件/年)					目標 達成度
	(原因) 警察による取り締まりや交通安全関係団体と連携した啓発活動により市民一人ひとりの交通安全に対する意識が高まっていることが要因と考えられます。									—

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 交通安全情報の発信

指標①	交通安全啓発活動人数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	危機管理課	人/年	8,528	7,220	5,711	→	
評価	(原因) 交通安全関係団体による交通安全啓発活動、小学生の登下校時におけるパトロール活動などを定期的実施していますが、活動参加者の負担軽減を図るため活動内容を効率化し実施したことが要因と考えられます。									(横ばい)
										目標達成度 (中)

基本事業01 交通安全情報の発信

指標②	飲酒運転検挙者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	社会	業務取得	下がると良い	危機管理課	人/年	13	6	9	—	
評価	(原因) 飲酒運転の根絶に向けて、交通安全関係団体、塩釜警察署、仙台育英学園等と連携し、継続的に交通安全啓発活動を行ったことが要因と考えられます。									(横ばい)
										目標達成度 —

基本事業02 交通安全環境の保全と整備

指標①	交通安全施設整備率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	都市整備課	%	100	100	100	100	
評価	(原因) 定期的な道路パトロールによる危険箇所の発見、安全施設設置要望があった場合には、設置基準に基づき迅速な対応の実施及び通学路の路面標示や区画線等を適正に整備していることが要因です。									(横ばい)
										目標達成度 (達成)

政策2

健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり
(健康福祉)

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 01 地域福祉の推進

施策の目指す姿

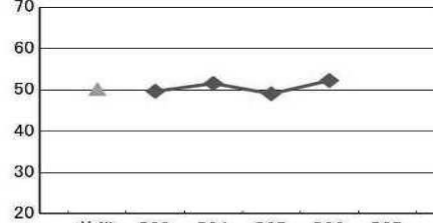
地域で助け合い、支え合いができる環境が整うことで、誰もが心豊かで安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

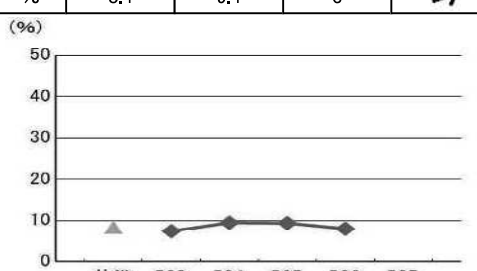
指標 ①	地域で手助けしたり、されたりする環境が整っていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	46.1	46.5	40.1	➔	
評価	(原因)「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」と回答した方が割合が減少し、「わからない」と回答した方の割合が増加しました。特に20歳代から30歳代までの年代で「わからない」と回答した方の割合が増えており、地域住民同士の関係が希薄になり、地域での助け合い・支え合いのイメージを持ちにくい方が増えていることが要因の1つと考えられます。									傘 (低下)
										目標 達成度 ■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

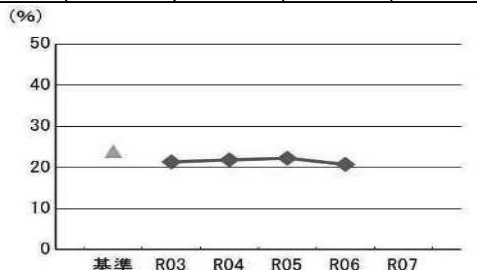
基本事業01 地域福祉意識の醸成と多様な担い手の育成支援

指標 ①	福祉活動に取り組む意識がある市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	50.3	49.1	52.3	➔		
評価	福祉活動とは、手助けしたり助け合う取組です。				(%)  基準 R03 R04 R05 R06 R07						☀ (横ばい)
	(原因)「今後行ってみたい」と回答した方の割合が40%以上を占めています。特に20歳代から30歳代までの年代で大きく増加しており、若い年代で、現在は取り組んでいないものの地域での福祉活動に必要性を感じたり、関心のある方が増えたことが要因の1つと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										目標 達成度
											■■ (中)

基本事業01 地域福祉意識の醸成と多様な担い手の育成支援

指標②	福祉活動に取り組んだことがある市民割合				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき	
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	8.4	9.4	8	➔		
評価	福祉活動とは、手助けしたり助け合う取組です。				(%)  (横ばい)						
	(原因) 70歳以上の年代では高い割合になっているものの、60歳代では福祉活動を行っている方の割合が減少しました。定年延長などにより、この年代で地域での福祉活動に関わる機会が減少していることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										目標達成度
											■ ■ (中)

基本事業02 地域で見守り合う仕組みづくり

指標 ①	要配慮者を助け合う仕組みが整っていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	社会福祉課	%	24	22.3	20.8	➔	
評価	（原因）30歳代から60歳代までの年代で、要配慮者を助け 合う仕組みが整っていると感じている割合が低くなってい ます。20歳代から30歳代までの年代で「わからない」と回答 した方が増えており、若い年代に対して、地域で助け合う 仕組みについて共有できていないことが要因の1つと考えら れます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%)  基準 R03 R04 R05 R06 R07					☁ (横ばい)
										目 標 達成度 ■■ (中)

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 02 健康づくりの促進

施策の目指す姿

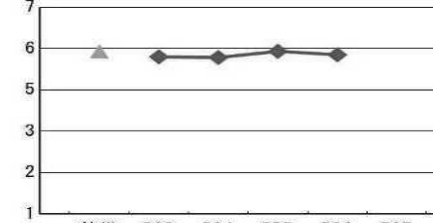
一人ひとりが自らの健康管理や病気などの予防に取り組むことで、健康に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自分が健康だと思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	76.7	74.4	72.4	➔	
評価	(原因) 年齢を増すごとに減少する傾向が見られ、高齢化に伴って全体の割合も減少していることが要因と考えられます。健康観は体力や疾病ばかりではなく、年齢に伴う衰えによる健康不安が影響しているものと考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) 100 90 80 70 60 50 基準 R03 R04 R05 R06 R07					 (横ばい)
										目標達成度 ■■■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 生活習慣の改善

指標①	健康に良い生活習慣の平均実践項目数			単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき											
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	項目	5.72	5.72	5.62	➔											
評価	全12項目中				(項目)					 (横ばい)										
	(原因) どの項目もわずかな減少傾向にあり、実践にうつせていない実態が要因と考えられます。特に「趣味や地域の活動に積極的に参加している」と回答した方の割合が非常に低く、社会性を向上する施策への展開の必要性が確認できます。				 <table border="1"><caption>Line Graph Data</caption><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>5.9</td></tr><tr><td>R03</td><td>5.8</td></tr><tr><td>R04</td><td>5.8</td></tr><tr><td>R05</td><td>5.9</td></tr><tr><td>R06</td><td>5.8</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	5.9	R03	5.8	R04	5.8	R05	5.9
項目	値																			
基準	5.9																			
R03	5.8																			
R04	5.8																			
R05	5.9																			
R06	5.8																			
										目標達成度  (中)										

基本事業01 生活習慣の改善

指標②	毎日朝食をとっている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき													
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	71.8	73.7	70.3	➔														
評価					(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>72</td></tr><tr><td>R03</td><td>70</td></tr><tr><td>R04</td><td>69</td></tr><tr><td>R05</td><td>74</td></tr><tr><td>R06</td><td>70</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	72	R03	70	R04	69	R05	74	R06	70	☁ (横ばい)
	項目	値 (%)																					
基準	72																						
R03	70																						
R04	69																						
R05	74																						
R06	70																						
	(原因) 若い世代ほど欠食率が高く、生活スタイルの多様化による時間的余裕のなさが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】										目標達成度 ■ ■ (中)												

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療等の推進

指標①	定期的に健康診査を受けている市民割合			単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	79.1	78.3	80.6	➔
評価	(原因)健康診査の必要性について、市ホームページやSNS等を活用した普及啓発に加え、AI分析なども活用し、受診対象者に合わせた勧奨通知を作成したことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07				☀ (横ばい)
									目標達成度 ■■ (高)

基本事業02 疾病予防・早期発見・早期治療等の推進

指標②	各種がん検診を受けている市民割合			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	63	67.4	68.5	➔														
評価	(原因)がん検診の必要性について、市ホームページやSNS等を活用したタイムリーな情報発信に加え、メディアなどからの普及啓発などにより、検診受診を考える機会が増えたことが要因と考えられます。				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>62</td></tr><tr><td>R03</td><td>64</td></tr><tr><td>R04</td><td>62</td></tr><tr><td>R05</td><td>67</td></tr><tr><td>R06</td><td>68</td></tr><tr><td>R07</td><td>-</td></tr></tbody></table>				項目	値 (%)	基準	62	R03	64	R04	62	R05	67	R06	68	R07	-	☀ (向上)
									項目	値 (%)													
基準	62																						
R03	64																						
R04	62																						
R05	67																						
R06	68																						
R07	-																						
								目標達成度 👑 (達成)															

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 母子保健の充実

指標①	乳幼児健診の平均受診率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき													
	成果	業務取得	上がると良い	子ども家庭課	%	98.6	96.6	96.1	→														
評価	指標は、集団健診の平均受診率です(個別受診数を含みません。)				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>98.6</td></tr><tr><td>R03</td><td>96.6</td></tr><tr><td>R04</td><td>96.6</td></tr><tr><td>R05</td><td>96.1</td></tr><tr><td>R06</td><td>96.1</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	98.6	R03	96.6	R04	96.6	R05	96.1	R06	96.1	☁ (横ばい)
	項目	値																					
基準	98.6																						
R03	96.6																						
R04	96.6																						
R05	96.1																						
R06	96.1																						
	(原因) 体調不良等の理由で健診当日に欠席し、年度をまたいだ受診日変更をするケース等が発生したことが要因と考えられます。				目標達成度 ■■■ (中)																		

基本事業03 母子保健の充実

指標②	出産後の支援について満足している者の割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき															
	成果	課独自調査	上がると良い	子ども家庭課	%	90.9	83.8	83.7	➡																
評価	3～4か月児健診時のアンケート調査結果(産後1か月程度の支援状況)				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>90.9</td></tr><tr><td>R03</td><td>83.8</td></tr><tr><td>R04</td><td>83.7</td></tr><tr><td>R05</td><td>83.7</td></tr><tr><td>R06</td><td>83.7</td></tr><tr><td>R07</td><td></td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	90.9	R03	83.8	R04	83.7	R05	83.7	R06	83.7	R07		☁ (横ばい)
	項目	値 (%)																							
基準	90.9																								
R03	83.8																								
R04	83.7																								
R05	83.7																								
R06	83.7																								
R07																									
(原因) 産後1か月程度の間の支援状況についてアンケートをとっており、昨年度と比較し満足度は横ばいです。妊娠期から伴走型相談支援を行っていることが要因と考えられます。				目 標 達成度 ■ (中)																					

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 03 子育て支援の充実

施策の目指す姿

子どもの育ちや子育て家庭を支える地域社会が形成されることで、不安なく子育てを行い、子ども一人ひとりが健やかに育つことができます。

施策の成果状況と評価

指標①	子育てしやすいまちであると思う保護者割合				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき													
	成果	市民アンケート	上がると良い	子ども政策課	%	46.1	47.3	51.2	➔														
評価	中学生以下の子どもの保護者対象				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>46.1</td></tr><tr><td>R03</td><td>47.3</td></tr><tr><td>R04</td><td>51.2</td></tr><tr><td>R05</td><td>47.3</td></tr><tr><td>R06</td><td>51.2</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	46.1	R03	47.3	R04	51.2	R05	47.3	R06	51.2	 (向上)
	項目	値 (%)																					
基準	46.1																						
R03	47.3																						
R04	51.2																						
R05	47.3																						
R06	51.2																						
	(原因) 子ども医療費助成の所得制限撤廃等により子育ての経済負担が軽減されたことや、教育・保育施設等の定員数が増加したことが要因と考えられます。				 目標達成度 (達成)																		

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 親子の健やかな育ちの支援

指標①	成果	市民アンケート	上がると良い	子ども家庭課	単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	妊娠や出産、子育てに関する市の相談窓口を知っている保護者の割合				%	86.4	79.4	79.6	➡	傘 (低下)
評価	小学生までの子どもを持つ保護者対象 (原因) 基準値に対し認識度が低下傾向にあります。妊娠・出産・子育てに関して、手続きの窓口としての認識はある一方、相談窓口という認識が薄いことが要因と考えられます。									目標達成度 ■ (中)

基本事業01 親子の健やかな育ちの支援

指標②	成果	課独自調査	下がると良い	子ども家庭課	単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	自分の子ども(乳幼児)に対して、育てにくさを感じている保護者割合				%	20.7	27.1	24.3	➡	傘 (低下)
評価	3歳児健診時のアンケート調査結果 (原因) 対象指標24.3%のうち、育てにくさを「時々感じている」は23.2%、「いつも感じている」は1.1%でした。育てにくさを感じる要因は、3歳児の発達の要因や子育ての環境的要因、育児不安や理想とのギャップなど様々な要因が複合していると考えられます。									目標達成度 ■ (中)

基本事業02 地域における子ども・子育て支援の充実

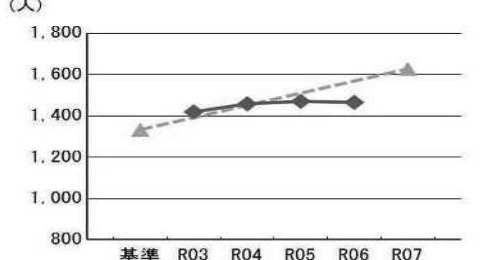
指標①	地域子育て支援拠点の利用者数					単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき												
	代替	業務取得	上がると良い	子ども政策課		人/年	52,099	51,501	54,935	55,000	 (向上)												
						(人/年) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>52,099</td></tr><tr><td>R03</td><td>51,501</td></tr><tr><td>R04</td><td>54,935</td></tr><tr><td>R05</td><td>55,000</td></tr><tr><td>R06</td><td>54,935</td></tr><tr><td>R07</td><td>55,000</td></tr></tbody></table>						項目	値	基準	52,099	R03	51,501	R04	54,935	R05	55,000	R06	54,935
項目	値																						
基準	52,099																						
R03	51,501																						
R04	54,935																						
R05	55,000																						
R06	54,935																						
R07	55,000																						
評価	(原因) イベントの充実に努めたことで、乳幼児親子や小学生の利用が増加したことなどが要因と考えられます。										目標達成度  (高)												

基本事業03 安定した保育の提供

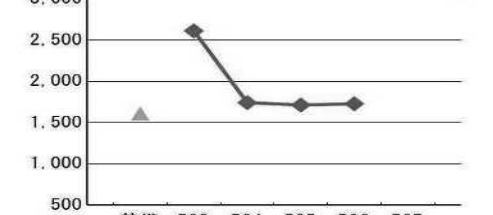
指標①	教育・保育施設等の待機児童数（国定義）					単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき														
	成果	業務取得	下がると良い	子ども政策課		人	46	13	1	0	 (向上)														
	各年度4月1日現在の数値					<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>数値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>46</td></tr><tr><td>R03</td><td>13</td></tr><tr><td>R04</td><td>13</td></tr><tr><td>R05</td><td>13</td></tr><tr><td>R06</td><td>1</td></tr><tr><td>R07</td><td>0</td></tr></tbody></table>						項目	数値	基準	46	R03	13	R04	13	R05	13	R06	1	R07	0
項目	数値																								
基準	46																								
R03	13																								
R04	13																								
R05	13																								
R06	1																								
R07	0																								
評価	(原因) 定員増となった教育・保育施設があったことにより、全体の定員数が増加していることが要因です。					<table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>数値</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>46</td></tr><tr><td>R03</td><td>13</td></tr><tr><td>R04</td><td>13</td></tr><tr><td>R05</td><td>13</td></tr><tr><td>R06</td><td>1</td></tr><tr><td>R07</td><td>0</td></tr></tbody></table>  目標達成度  (高)						項目	数値	基準	46	R03	13	R04	13	R05	13	R06	1	R07	0
項目	数値																								
基準	46																								
R03	13																								
R04	13																								
R05	13																								
R06	1																								
R07	0																								

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 安定した保育の提供

指標②	教育・保育施設等の定員数				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	子ども政策課	人	1,334	1,471	1,466	1,628	 (向上)
	各年度4月1日現在の数値				(人) 					
評価	(原因) 教育・保育施設等の開設や定員増となった施設、認定こども園に移行した幼稚園等があったことが要因です。									

基本事業04 子育ての経済的負担の軽減

指標 ①	子育ての経済負担の軽減総額				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	子ども政策課	百万円	1,612	1,715	1,730	—	
評価	(原因) 子ども医療費助成の所得制限撤廃や児童手当の改正(拡充)があったことが要因です。									

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 04 高齢者福祉の推進

施策の目指す姿

高齢者が自立し、いきいきと活躍できる社会が形成されることで、生涯にわたり安心してその人らしく暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	自立高齢者の割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	%	83.9	83.2	82.5	82.3	(横ばい)
評価	(原因) 全国的に高齢化が進み、本市でも同様の状況のため要介護認定者数の増加が見込まれるものの、介護予防事業(総合事業)の推進や、地域での介護予防活動により、令和6年度においても要介護等出現率の抑制が図られたことが要因と考えられます。									目標 達成度
										(達成)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 生きがい活動の推進

指標①	生きがいを持っている高齢者の割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	%	94.2	93.6	92.9	→	(横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルスなどの感染症の影響や定年延長により、地域での社会活動等の機会が減少する中にあっても、家族との団らんや友人、知人等との交流、外での活動等が実践されていることが、微減を維持できている要因と考えます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07					目標達成度
										(達成)

基本事業02 介護予防の推進

指標①	介護保険の認定を新たに受けた市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	%	3.3	3.5	3.8	—	(横ばい)
評価	介護保険認定を新たに受けた人数/第1号被保険者数				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07					目標達成度
	(原因) 前期基準値よりやや高めの横ばいで推移していますが、令和6年度は要支援1や要支援2の認定者が増えており、日常生活動作や認知機能の一部に支援が必要な段階で、早めに通所型サービスの利用を希望する方が増えたことが要因と考えられます。									(中)

基本事業02 介護予防の推進

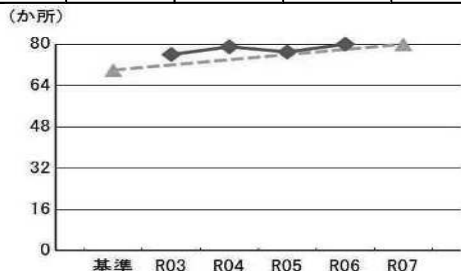
指標②	介護予防のための行動平均実践項目数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	健康長寿課	項目	6.02	5.95	5.87	→	(横ばい)
評価	40歳以上の市民対象				(項目) 基準 R03 R04 R05 R06 R07					目標達成度
	(原因) 特に60代における項目数が減少しており、定年延長による生活変化が要因と考えられます。一方で、定期的な運動教室の実施や自宅のできる介護予防の取組の発信により、微減が維持されているものと考えられます。									(中)

基本事業03 日常生活の支援

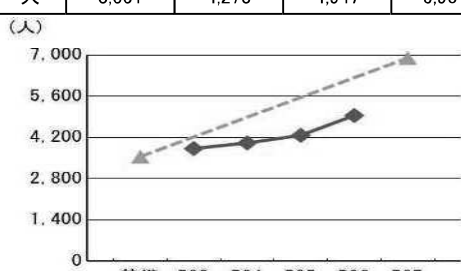
指標①	介護予防・日常生活支援総合事業サービスの利用者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	572	811	921	—	(横ばい)
評価	(原因) 65歳以上の人口に対する利用者割合は前期基準値取得年度の平成31年度は3.7%、令和6年度は5.7%となっています。増加率はやや緩やかになりましたが、日常生活動作や認知機能の一部に支援が必要な段階で、早めに通所型サービスの利用を希望する方が増えている傾向が続いていることが要因と考えられます。				(人/年) 基準 R03 R04 R05 R06 R07					目標達成度
										(中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 地域包括ケアの充実

指標 ①	連携している在宅医療機関、介護事業所の数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	か所	70	77	80	80	 (向上)
評価	(原因) 普段から連携が取りやすくなるよう顔の見える関係づくりの一環として研修会を行っており、連携体制の構築に向けた働きかけを続けているなかで、新型コロナウイルス感染症の影響により中止していた塩釜医師会を中心とした在宅医療講演会(2市3町合同開催)が、4年ぶりに再開したことが要因です。									 (達成)

基本事業05 認知症対策の推進

指標 ①	認知症の方への対応方法を知っている市民数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	人	3,551	4,273	4,947	6,901	 (横ばい)
評価	認知症サポーター養成講座受講者数の累計				(人) 					
	(原因) 市内小中学校で認知症サポーター養成講座を開催したことにより、令和6年度の受講者数は令和5年度の2倍以上に増えましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により受講者数が低く推移していたことで累計数に影響が出ていることが要因と考えられます。									
					目標 達成度  (中)					

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 05 障害者（児）福祉の推進

施策の目指す姿

障害者（児）がその適性や能力に応じて、安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	障害者（児）がその適性や能力に応じて安心して暮らしていると思う割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき							
	成果	課独自調査	上がると良い	介護・障害福祉課	%	62.8	67.1	－	➔								
評 価	障害者計画策定時実施のアンケート結果				(%) <table><thead><tr><th>年度</th><th>割合 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>62.8</td></tr><tr><td>R05</td><td>67.1</td></tr></tbody></table>						年度	割合 (%)	基準	62.8	R05	67.1	目 標 達成度
	年度	割合 (%)															
基準	62.8																
R05	67.1																
	（原因）障害者（児）を対象にしたアンケートによる指標であり、令和6年度はアンケートを実施していないため、実績値を取得していません。※次回は令和8年度実施予定【前期基準値取得年度は、平成29年度です。】																

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 自立支援の推進

指標①	自立支援給付の延べ利用者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	1,172	1,497	1,540	—	—
評価	(原因) 障害者の人数が増えていることによって、全体的にサービス利用者数が増加しています。特に放課後等デイサービス、児童発達支援、就労系サービス、共同生活援助(グループホーム)、生活介護の利用者数が増加しており、サービス利用に必要となる計画相談利用者数も増加しています。生活介護の利用者の増加は、市内の就労継続支援B型事業所が生活介護事業所を併設したことが要因です。									目標達成度
										—

基本事業02 地域生活支援事業の利用促進

指標①	地域生活支援事業の延べ利用者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	10,002	10,514	9,388	—	—
評価	(原因) 福祉タクシー利用助成事業・障害者自動車等燃料費助成事業の制度改正により、当該事業の対象者が減少したことが主な要因です。									目標達成度
										—

基本事業03 児童発達支援の推進

指標①	適切な療育サービスが受けられていると思う保護者割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	介護・障害福祉課	%	100	100	100	→	—
評価	児童発達支援利用者対象のアンケート結果									目標達成度
	(原因) 児童の状態等を踏まえた個別支援計画を作成し、専門職による適切な支援を行うことで、児童の発達を促し、保護者の不安軽減にもつながっていることが要因と考えられます。									目標達成度

基本事業03 児童発達支援の推進

指標②	発達相談を受けた児童の数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	181	163	144	—	—
評価	児童発達支援センターと母子健康センターで発達相談(専門職相談)を受けた児童の数									目標達成度
	(原因) 児童発達支援センター太陽の家を中核とした相談支援体制の充実を図っています。児童の状況や特性、保護者の障害受容の状況等を踏まえた支援を行うために児童発達支援センター太陽の家において専門職相談を実施しますが、通院治療や診断を受ける必要がある場合は、医療機関の受診を促しており、その数が増えていることが要因です。									—

□基本事業の成果状況と評価

基本事業04 各種手当・医療費等助成の給付

指標①	延べ特別障害者手当等給付件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	件/年	935	901	841	—	
評価	(原因) 重度の障害のため新規に支給開始する方も増えていますが、死亡や転出、施設入所等により受給資格を喪失している方もおり、全体として、手当の受給者が減少していることが要因です。				(件/年) 					目標 達成度

基本事業04 各種手当・医療費等助成の給付

指標②	延べ心身障害者医療費助成件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	国保年金課	件/年	27,805	27,934	28,008	—	
評価	(原因) 受給対象者数は減少したものの、一人当たりの受診件数が増加していることが要因です。				(件/年) 					目標 達成度

政策 02 健やかで優しい 支え合いのあるまちづくり

施策 06 社会保障等の充実

施策の目指す姿

社会保障制度等により、市民の生活基盤が確保されることで、誰もが安心して暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標①	—			単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき
		その他	社会福祉課	—	—			—	
評価	国の政策等の影響が大きいため成果指標は設定していません。								---
									目標達成度

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標①	国民健康保険税の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	93.4	94.1	94.1	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 低所得世帯に対する負担軽減措置などが要因と考えられます。									目標達成度 (中)

基本事業01 保険制度の適正な運営

指標②	後期高齢者医療保険料の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	国保年金課	%	99.2	99.5	99.5	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 年金からの特別徴収により保険料を納付する被保険者数の割合が高いことが要因です。									目標達成度 (達成)

基本事業01 保険制度の適正な運営

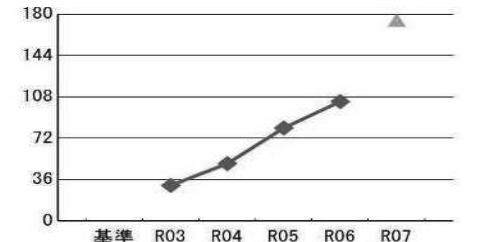
指標③	介護保険料の現年度収納率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	%	99.4	99.6	99.7	→	
評価										(横ばい)
	(原因) 介護保険被保険者数の増加に伴い、年金からの特別徴収により保険料を納付する被保険者数も増加していることが要因です。									目標達成度 (達成)

基本事業01 保険制度の適正な運営

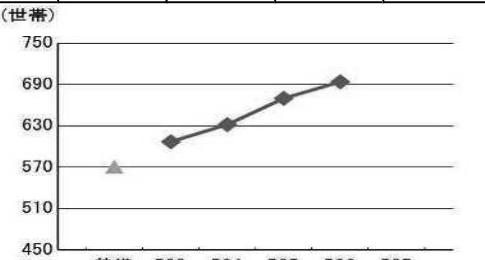
指標④	1人当たりの国民健康保険医療費				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	国保年金課	円/年	378,790	453,209	460,126	—	
評価										目標達成度 (達成)
	(原因) 被保険者数は減少したものの、医療費総額が増加していることが要因です。									

□基本事業の成果状況と評価

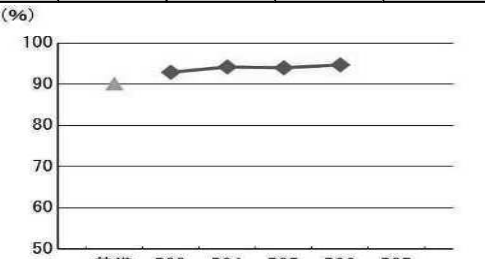
基本事業02 生活保護受給者（世帯）への自立支援

指標①	自立による生活保護廃止世帯件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき	
	代替	業務取得	上がると良い	社会福祉課	世帯	—	81	104	175	 (横ばい) 目 標 達成度 (中)	
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計				(世帯) 						
	(原因) 令和6年度の廃止世帯109世帯中、就労や収入の増加に伴う廃止が23世帯であり、就労支援員及び担当ケースワーカーによる各種支援の効果が一定程度見られますが、保護受給者の大半が高齢者や疾病を持っている方であり、就労による自立を目指すことが困難な方々が増加していることが要因と考えられます。										

基本事業02 生活保護受給者（世帯）への自立支援

指標②	生活保護受給世帯数				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき	
	代替	業務取得	その他	社会福祉課	世帯	571	670	694	—	目 標 達成度	
評 価					(世帯) 						
	(原因) 高齢世帯や傷病等による収入の不安定さを理由とした保護開始件数が増加したことが要因です。一方で、物価高騰の影響が懸念されましたが、各種生活困窮者向け緊急経済対策等による支援があったことで、急増には至っていません。										

基本事業03 公営住宅の適正な運営

指標 ①	低所得者の入居割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	その他	都市計画課	%	90.2	94	94.7	—	
評価	収入超過していない世帯の割合				(%) 					
	(原因) 低額所得者の入居が進んだことや収入超過世帯の入居者の収入減・退去したことが要因と考えられます。									

基本事業04 生活困窮者への自立支援

指標①	生活困窮者に係る支援により課題が解決した件数（累計）				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき													
	代替	業務取得	上がると良い	社会福祉課	件	—	1,002	1,225	1,500	(横ばい)													
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計				(件) <table><thead><tr><th>年度</th><th>件数</th></tr></thead><tbody><tr><td>R03</td><td>400</td></tr><tr><td>R04</td><td>700</td></tr><tr><td>R05</td><td>1,002</td></tr><tr><td>R06</td><td>1,225</td></tr><tr><td>R07</td><td>1,500</td></tr></tbody></table>						年度	件数	R03	400	R04	700	R05	1,002	R06	1,225	R07	1,500	目標 達成度
	年度	件数																					
R03	400																						
R04	700																						
R05	1,002																						
R06	1,225																						
R07	1,500																						
	(原因) 複数年度にわたる相談を継続的に実施していることや、物価高騰の影響等により、生活困窮に陥った方に対する様々な制度支援の適切な紹介を行ったことが要因と考えられます。				(中)																		

□基本事業の成果状況と評価

基本事業05 介護保険サービスの適切な利用

指標①	施設サービスを利用している市民数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	介護・障害福祉課	人/年	461	547	542	—	—
評価	(原因) 介護老人福祉施設の利用者が増加していることが主な要因です。									目標達成度
										—

基本事業05 介護保険サービスの適切な利用

指標②	介護サービス事業者・施設への実地指導件数（累計）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	介護・障害福祉課	件	—	20	25	25	☀ (向上)
評価	前期目標値及び実績値は、令和3年度を初年度とする5年間の累計									目標達成度
					(原因) 過去の実績を踏まえて年度ごとに実地指導の計画を立てており、概ね計画どおりに実施できていることが要因です。					☀ (達成)

政策3

夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり
(教育文化)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 01 学校・家庭・地域の連携による教育力の向上

施策の目指す姿

学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの学びを支える地域社会が形成されることで、子どもたちがいきいきと安全に暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	学校・家庭・地域が連携し、子どもたちの豊かな育ちを支え合う地域がつけられていると思う市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	38.6	34.1	37	➔	
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携して子どもの育ちを支える事業・地域行事などは再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、これらの取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									(横ばい)
										目標達成度 ■■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標①	学校・家庭・地域が連携した取組に参加している市民割合			単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	16.4	12.6	14.4	➔
評価	(原因) 学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07				☁ (横ばい)
									目標達成度
価値									■■ (中)

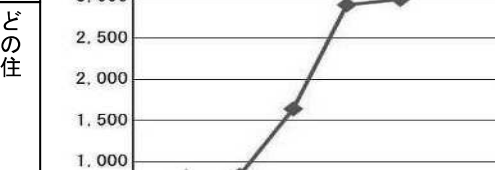
基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標②	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている児童の割合（小学生）			単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	77.3	78	82.7	➔
評価	教育活動状況調査の結果				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07				
	（原因）学校・家庭・地域が連携した取組が再開されたことに伴い、様々な知識や経験を学ぶことができていると実感する児童が増加したことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】								
価値					☀ （向上） 目標達成度 🏠 （達成）				

基本事業01 学校・家庭・地域の教育連携・協働の推進

指標③	学校だけでは得られない知識や経験を地域住民から学ぶことができていると感じている生徒の割合（中学生）			単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	生涯学習課	%	80.9	73.2	72.6	➔
評価	教育活動状況調査の結果				(%) 基準 R03 R04 R05 R06 R07				
	（原因）学校・家庭・地域が連携した取組は再開されていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、取組の停滞が長期化した影響から、数値の向上に至っていないことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和2年度です。】								
価値					(横ばい) 目標達成度 ■ (中)				

基本事業02 青少年の健全育成

指標 ①	青少年育成活動事業の延べ参加者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	839	2,905	2,972	➔	 (向上)														
評価	(原因) 小学校で放課後の空き教室などを活用して、子どもに体験の場を提供する放課後子ども教室や、小中学校の授業などを支援する学校支援活動が増え、参加する地域住民が増加したことが要因と考えられます。 【前期基準値取得年度は、令和3年度です。】				(人/年)  <table border="1"><thead><tr><th>年度</th><th>参加者数 (人/年)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>839</td></tr><tr><td>R03</td><td>2,905</td></tr><tr><td>R04</td><td>1,600</td></tr><tr><td>R05</td><td>2,900</td></tr><tr><td>R06</td><td>2,970</td></tr><tr><td>R07</td><td>2,970</td></tr></tbody></table> 目標達成度  (達成)						年度	参加者数 (人/年)	基準	839	R03	2,905	R04	1,600	R05	2,900	R06	2,970	R07	2,970
											年度	参加者数 (人/年)												
基準	839																							
R03	2,905																							
R04	1,600																							
R05	2,900																							
R06	2,970																							
R07	2,970																							

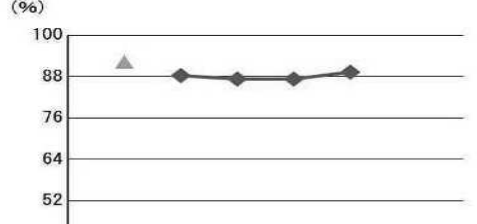
政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

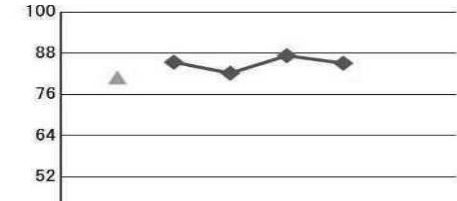
施策 02 学校教育の充実

施策の目指す姿

児童・生徒の確かな学力、豊かな心、健やかな体が育まれることで、夢や希望が持てる充実した学校生活を送ることができています。

施策の成果状況と評価

指標①	学校生活が楽しいと思う児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	92.3	87.3	89.3	➔	 (横ばい)														
評価	教育活動状況調査の結果				(%) <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>92.3</td></tr><tr><td>R03</td><td>87.3</td></tr><tr><td>R04</td><td>87.3</td></tr><tr><td>R05</td><td>87.3</td></tr><tr><td>R06</td><td>89.3</td></tr><tr><td>R07</td><td>89.3</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	92.3	R03	87.3	R04	87.3	R05	87.3	R06	89.3	R07	89.3
	項目	値 (%)																						
基準	92.3																							
R03	87.3																							
R04	87.3																							
R05	87.3																							
R06	89.3																							
R07	89.3																							
(原因) 各校の工夫により、児童が前向きに学習や友達づくりに取り組んだことで、8割以上の高い水準で推移していますが、勉強が難しいと感じている児童割合が、学年が進むに従い増える傾向にあることが要因と考えられます。				目標達成度  (中)																				

指標②	学校生活が楽しいと思う生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	81	87.3	85.1	➔	 (向上)														
評価	教育活動状況調査の結果				(%)  <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>81</td></tr><tr><td>R03</td><td>87.3</td></tr><tr><td>R04</td><td>85.1</td></tr><tr><td>R05</td><td>87.3</td></tr><tr><td>R06</td><td>85.1</td></tr><tr><td>R07</td><td>85.1</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	81	R03	87.3	R04	85.1	R05	87.3	R06	85.1	R07	85.1
	項目	値 (%)																						
基準	81																							
R03	87.3																							
R04	85.1																							
R05	87.3																							
R06	85.1																							
R07	85.1																							
(原因) 各校の工夫により、自分の意見を安心して伝えられるなどの環境の中、探究的な学習活動や行事等に取り組むことができたことが要因と考えられます。				目標達成度  (達成)																				

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 確かな学力の育成

指標①	授業がわかると答える児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	90.3	86.9	88.5	→	
評価	教育活動状況調査の結果									 (横ばい)
	(原因) 基準値を若干下回っているものの、ICT機器の活用やグループでの調べ活動、話し合いの機会を確保することで、児童同士が学び合いを行い、より主体的に学習に取り組めるように工夫していることが要因と考えられます。									 目標達成度 (中)

基本事業01 確かな学力の育成

指標②	授業がわかると答える生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	課独自調査	上がると良い	教育総務課	%	80.7	84.1	75.9	→	
評価	教育活動状況調査の結果									 (低下)
	(原因) 学習習慣が十分に身についておらず、指導内容と生徒の理解度に乖離がある可能性が考えられます。加えて、学習に対する理解が十分に積み上がっておらず、基礎的な内容の定着が不十分な生徒がいることが要因と考えられます。									 目標達成度 (中)

基本事業02 豊かな心の育成

指標①	不登校出現率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	下がると良い	教育総務課	%	2.4	5.5	5.8	→	
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									 (低下)
	(原因) 学校生活や家庭生活に対する悩みや不安を抱え、集団活動に馴染みにくく、登校渋りとなる児童・生徒が増加しています。また、保護者の不登校に対する受け止め方の変化や、軽い風邪等の症状でも大事をとって学校を欠席させる家庭が増え、年間30日以上欠席した児童生徒が小学校低学年を中心に増加したことが要因と考えられます。									 目標達成度 (中)

基本事業02 豊かな心の育成

指標②	再登校率				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	教育総務課	%	19.8	37.7	35.4	—	
評価	児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査を基に算出									 目標達成度 (中)
	(原因) 不登校児童・生徒に対して、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる相談対応、学び支援教室等の別室登校による対応、心のケアハウスの運営など様々な支援を行ってきたことが要因と考えられます。 【令和3年度から指標のとり方を変更しています。】									 目標達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 健やかな体の育成

指標①	基本的生活習慣を身に付けている児童割合（小学生）				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき												
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	87.1	89.1	88.6	➡													
評価	全国学力・学習状況調査の結果				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>78</td></tr><tr><td>R03</td><td>88</td></tr><tr><td>R04</td><td>85</td></tr><tr><td>R05</td><td>88</td></tr><tr><td>R06</td><td>88</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	78	R03	88	R04	85	R05	88	R06	88	 (向上)
	項目	値 (%)																				
	基準	78																				
R03	88																					
R04	85																					
R05	88																					
R06	88																					
(原因) 朝食を毎日食っている児童の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。				目標 達成度																		
				 (達成)																		

基本事業03 健やかな体の育成

指標②	基本的生活習慣を身に付けている生徒割合（中学生）				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき												
	成果	業務取得	上がると良い	教育総務課	%	81.7	86.9	88.7	➡													
評価	全国学力・学習状況調査の結果				(%) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>75</td></tr><tr><td>R03</td><td>88</td></tr><tr><td>R04</td><td>85</td></tr><tr><td>R05</td><td>88</td></tr><tr><td>R06</td><td>88</td></tr></tbody></table>					項目	値 (%)	基準	75	R03	88	R04	85	R05	88	R06	88	
	項目	値 (%)																				
	基準	75																				
R03	88																					
R04	85																					
R05	88																					
R06	88																					
(原因) 朝食を毎日食っている生徒の割合が増えたことや睡眠習慣が改善に向かったことが要因と考えられます。																						

基本事業04 教育環境の保全と運営

指標①	授業及び学校生活に支障をきたした件数				単位	基準値	実績値(R05)	実績値(R06)	目標値(R07)	指標の うごき														
	成果	業務取得	下がると良い	教育総務課	件/年	0	0	0	0															
評価					(件/年) <table border="1"><thead><tr><th>項目</th><th>基準</th><th>R03</th><th>R04</th><th>R05</th><th>R06</th><th>R07</th></tr></thead><tbody><tr><td>件数</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr></tbody></table>					項目	基準	R03	R04	R05	R06	R07	件数	0	0	0	0	0	0	 (横ばい)
	項目	基準	R03	R04						R05	R06	R07												
	件数	0	0	0	0	0	0																	
(原因) 学校施設の維持管理に当たっては、定期的に施設整備の点検を行い、不具合発生前に修繕箇所を手当てするなど、きめ細かい対応を行ったことが要因です。					 目標達成度																			
										 (達成)														

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 03 生涯学習の促進

施策の目指す姿

生涯を通じて学び、活躍できる機会や場があることで、生きがいを持って社会に参加し、心豊かに暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	生涯学習を行っている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	71.3	74.7	73.5	➔	
評価	(原因) 公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、インターネットなどの方法でいつでも自由に多様な学習機会が提供される環境が整ってきていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										目標 達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標①	学習機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	88.3	88.1	90	➔	☀ (横ばい)
評価	(原因) 公民館などでの講座や教室、サークル活動のほか、インターネットなどの方法でいつでも自由に多様な学習機会が提供される環境が整ってきていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 ■ (中)

基本事業01 学びと発揮の機会の確保

指標②	学習成果を生かしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	66.4	67.3	66.1	➔	☁ (横ばい)
評価	(原因) 学習機会が多様化したことで学ぶ場が増えたことにより、学習成果を自身の仕事や就職、趣味・健康・生活に生かすことができていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 ■ (中)

基本事業02 文化芸術の振興

指標①	文化芸術の直接鑑賞をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	53.3	62.8	64.7	➔	☀ (向上)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことで、文化芸術に関するイベントが多く開催されるようになったことや、映画や音楽の鑑賞、地域の祭りへの参加等、自ら動いた市民が増加したことが要因と考えられます。									目標達成度 ■ (達成)

基本事業02 文化芸術の振興

指標②	文化芸術活動をしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	18.6	20.5	22.6	➔	☀ (横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことで、市民自らが文化芸術活動を行うことができる環境が整ってきたことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標達成度 ■ (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業03 生涯学習施設の保全と運営

指標 ①	生涯学習施設を利用している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	52.2	51.9	60.6	➔	
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行により感染状況が落ち着いたことから、文化センター等の利用者が増加したことが要因と考えられます。また、前年度と比較して増加した要因は、令和5年7月に文化センターの大規模修繕が終了したことが考えられます。				(%) 70 60 50 40 30 20 基準 R03 R04 R05 R06 R07					(向上)
										目標 達成度 (達成)

政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 04 市民スポーツ社会の促進

施策の目指す姿

運動・スポーツに親しむ機会や場があり、生涯を通じて、運動・スポーツの楽しさや感動を分かち合うことで、活力をもって暮らすことができます。

施策の成果状況と評価

指標 ①	週1回以上運動・スポーツをしている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	46.2	49.4	44.4	➔	
評価	(原因) 近年、実績値が上下しています。新型コロナウイルス感染症が令和5年に5類感染症移行によりスポーツを取り巻く環境が変化している一方で、運動・スポーツ習慣の定着化が実現できていないことが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									 (横ばい)
										目標 達成度 (中)

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標 ①	運動・スポーツ機会に満足している市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	生涯学習課	%	81.7	83.4	85	➔	☀ (横ばい)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、ウォーキングやランニングなどの個人で運動・スポーツを行う人が増加しており、集団で行う競技スポーツを併せ、多様な運動・スポーツの機会を持つことができていることが要因と考えられます。 【統計誤差の範囲内です。】									目標 達成度
										■ ■ (中)

基本事業01 スポーツ機会の確保

指標 ②	スポーツ等の教室・大会の参加者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	5,330	9,117	9,438	5,500	☀ (向上)
評価	(原因) 新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に伴い、社会体育事業やスポーツ団体の活動が活発に開催されるようになり、市民が参加する機会が増えたことが要因と考えられます。									目標 達成度
										🏠 (達成)

基本事業02 社会体育施設等の保全と運営

指標 ①	社会体育施設等の利用者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき
	代替	業務取得	上がると良い	生涯学習課	人/年	296,806	249,329	250,719	350,000	☁ (横ばい)
評価	市内公有社会体育施設及び学校開放施設の利用者数です。 (原因) 新型コロナウイルス感染症の影響により、個人で運動・スポーツを行う人が増加しており、集団で運動・スポーツを行う人を主な対象とする社会体育施設等の利用者が減少していることが要因であると考えられます。									目標 達成度
										■ ■ (中)

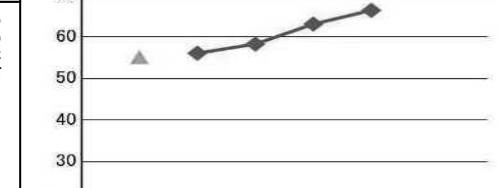
政策 03 夢と希望が輝く 誰もが成長できるまちづくり

施策 05 文化財の保護と活用

施策の目指す姿

文化財が適切に保護・継承され、まちづくりに有効に活用されることで、市民が歴史と文化を身近に感じることができています。

施策の成果状況と評価

指標 ①	市の歴史と文化を身近に感じている市民割合				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標の うごき														
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	%	55.2	63.1	66.4	➔	 (向上)														
評 価	(原因) 普及啓発活動や特別史跡多賀城跡復元整備事業の進捗に加え、多賀城創建1300年記念事業や多賀城碑の国宝指定もあり、多くのメディアから情報発信されたことが要因と考えられます。				(%)  <table><thead><tr><th>項目</th><th>値 (%)</th></tr></thead><tbody><tr><td>基準</td><td>55.2</td></tr><tr><td>R03</td><td>58.0</td></tr><tr><td>R04</td><td>59.0</td></tr><tr><td>R05</td><td>63.1</td></tr><tr><td>R06</td><td>66.4</td></tr><tr><td>R07</td><td>66.4</td></tr></tbody></table>						項目	値 (%)	基準	55.2	R03	58.0	R04	59.0	R05	63.1	R06	66.4	R07	66.4
										項目	値 (%)													
基準	55.2																							
R03	58.0																							
R04	59.0																							
R05	63.1																							
R06	66.4																							
R07	66.4																							

□基本事業の成果状況と評価

基本事業01 文化財の調査・保存の推進

指標①	適正に調査・保護された文化財の件数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	その他	文化財課	件	188	180	215	—	
評価	周知の埋蔵文化財包蔵地の届出等件数及び特別史跡内現状変更申請件数				(件)					目標達成度
	(原因) 中央公園整備関連やNTT柱の建て替え件数の増加、個人住宅新築や外構工事及び古家の解体から新築に関する案件が増えていることが主な要因です。									—

基本事業02 文化財の活用促進

指標①	活用されている文化財の面積				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	業務取得	上がると良い	文化財課	m ²	193,393	288,406	304,214	360,895	 (横ばい)
評価	(原因) 多賀城跡及び南門地区の整備完了に伴い、史跡の活用面積が増加したことが要因です。				(m ²)					目標達成度
										 (中)

基本事業02 文化財の活用促進

指標②	市内所在の文化財等訪問者数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	代替	業務取得	上がると良い	文化財課	人/年	135,009	155,893	186,102	170,000	 (向上)
評価	(原因) 史跡を活用した多賀城創建1300年記念事業や関連イベントの開催、多賀城創建千三百年記念式典後の南門周辺の一部開放などに伴い、市内文化財等への関心及び訪問する機会が増加していることが要因と考えられます。				(人/年)					目標達成度
										 (達成)

基本事業03 文化財の普及啓発

指標①	市内所在文化財等の平均認知項目数				単位	基準値	実績値 (R05)	実績値 (R06)	目標値 (R07)	指標のうごき
	成果	市民アンケート	上がると良い	文化財課	項目	8.06	8.62	7.8	→	 (横ばい)
評価	(原因) 多賀城創建1300年記念事業や関連イベント、多賀城碑の国宝指定により、多賀城跡や多賀城碑の認知度は向上した一方で、その他の市内文化財については例年並みの普及活動にとどまったことが、認知度が減少した要因と考えられます。				(項目)					目標達成度
										 (中)

